



No.41

げんきカエル



こども病院ニュースレター

小児がん拠点病院指定を受けて

血液腫瘍内科 小阪 嘉之

厚生労働省の平成24年度からのがん対策推進基本計画事業の一環として、小児がん拠点病院を選定することが昨年の6月に決まりました。

ご存じのように小児がんは年間発症数2000-2500例程度と極めて希少な疾患であるうえに、腫瘍の種類は多く、全国200施設ほどで診療している、という実態があります。換言しますと、年間1-2例、あるいはそれ以下の症例しか診療していない施設も多数ある、ということです。そこで患者さんを診療実績のある病院に集約化して、より良い医療を提供しよう、というのが今回のコンセプトでした。

昨年10月の診療実績などの書類審査に続き、12月の厚生労働省主催のヒアリングを経て、本年1月31日の選定会議にて当院を含む全国15の施設が選定され、当院も2月8日付で正式に厚生労働大臣から「小児がん拠点病院」の指定を受けました(表参照)。小児がんに関わる我々としては、これまでの取組が評価されて本当に喜ばしく、また光栄なことです。

言うまでもなく、小児がん診療というのは、集学的治療と言われる、多くの診療科(腫瘍医以外にも手術をする各外科系医、その際の麻酔医、診断や治

療に携わる放射線科医、病理医など)や医師以外の職種(看護師、検査技師、心理士など)の協力が必要です。

今回拠点病院に選定されたのはこれらの職種の方々や、多大なるご尽力・ご指導をいただいた丸尾猛病院長を初めとするすべての病院職員、兵庫県行政の皆様、そして何より日頃から色々なことでご協力いただいております、患者さん、そしてそのご家族のお蔭とこの場を借りまして御礼申し上げます。

しかし今回、「小児がん拠点病院」となったことでこれまで以上に当院が小児がん診療に果たさなくてはいけない課題は多くなったことも事実です。たとえば、緩和医療の充実、治療が終了した患者さんのキャリアオーバー患者さんを含む長期フォローアップ体制、思春期世代の診療、などなど問題も山積であるのが実状ではあります。

今後は上記のような問題にもしっかりと向き合い、小児がん患者さんを治癒させるにとどまらず、その方の人生の質(QOL)向上にも寄与できる診療を提供できるようにスタッフ一同ますます頑張ってもらいますので、どうか今後ともよろしくお願い申し上げます。

小児がん拠点病院指定一覧表(平成24年2月9日付)

都道府県	指定拠点病院
1 北海道	北海道大学病院
2 宮城県	東北大学病院
3 埼玉県	埼玉県立小児医療センター
4 東京都	独立行政法人国立成育医療研究センター
5 東京都	東京都立小児総合医療センター
6 神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立こども医療センター
7 愛知県	名古屋大学医学部附属病院
8 三重県	三重大学医学部附属病院
9 京都府	京都大学医学部附属病院
10 京都府	京都府立医科大学附属病院
11 大阪府	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター
12 大阪府	大阪市立総合医療センター
13 兵庫県	兵庫県立こども病院
14 広島県	広島大学病院
15 福岡県	九州大学病院



院内専門看護師・認定看護師会の活動

小児看護専門看護師 濱田 米紀

当会は、現在、小児看護専門看護師4名、皮膚排泄ケア・新生児集中ケア・感染管理・がん化学療法看護認定看護師各1名と小児救急看護認定看護師2名の計10名で構成されています。病院全体の看護の質向上を目指し、各領域における専門的知識や技術を駆使しながら、日々のケア支援や相談対応、勉強会や多職種共同研究の実施など組織横断的に活動しています。お子様やご家族、スタッフの皆様にご利用いただき、ともによりよいケアを実践していきたいと思えます。



小児救急看護認定看護師となって 小児救急医療センター 藤原健太



はじめまして。私は昨年7月に小児救急看護認定看護師として認定を受けました。小児救急看護認定看護師としての役割は、子どもの緊急・急変時の救命処置だけでなく、救急外来を受診する子どもへのケアや、安心して家庭での育児が行えるようご家族への支援を行うことです。また、入院している子どもとご家族が安心して入院生活を送れるよう看護していくことです。子どもの健やかな成長発達のため、ご家族も含め支援を行うことができるよう取り組みたいと考えます。

小児看護専門看護師となって 混合A病棟 文字智子



はじめまして。私は昨年12月に小児看護専門看護師として認定を受けました。専門看護師の6つの役割機能（実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究）を通して、お子様とご家族が安心してより健康的に療養生活を送れるよう、院内外の関係職種と連携し、皆様と一緒にケアに取り組みたいと考えております。それぞれのお子様の成長発達や将来の成人医療への移行をみすえて、健康管理の支援などで悩まれているとき、ご相談にのらせていただきます。



産科 紹介

産科部長 船越 徹

当科は兵庫県唯一の総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊産婦のみを受け入れる紹介型医療施設で、母体胎児集中治療管理室（MFICU）6床を含めて32床、陣痛室2室、分娩室3室、産科専用手術室1室を有します。近畿ブロック周産期医療広域連携事業における兵庫県の拠点病院として他府県からの母体搬送にも対応しています。

入院理由の上位は切迫早産、胎児形態異常、子宮内胎児発育不全、前期破水、多胎です。2012年：分娩数344（22週未満の死産7例含む）、出産数398、生産数385、死産数13、多胎49（双胎44、品胎5）、帝切数225（率66%）、早産率61%、出生体重1,000g未満の児数32（率8.3%）、母体搬送受入127。

周産期医療の最後の砦として診療レベルの維持・向上に努め、また、可能な限り母体搬送入院を受け入れています。胎児機能不全等の適応があれば手術決定から15分以内の児の娩出を目指す「超緊急帝王切開」を関連部門・スタッフの協力を得て行なっています（平成24年の超緊急帝切：13件）。

2012年の病床稼働率は94.1%、緊急母体搬送の受け入れ率は63%でした。病床稼働率が高くなれば、満床またはオーバーベッドの日が多くなるためベッドコントロールが困難となり、結果として緊急母体搬送を受け入れることができません。また、外来紹介を受け即日入院が必要と判断されても入院ベッドがないこともあります。当科はこども病院に併設された周産期母子医療センターですので、他科のベッドを借りることができません。従って、当科が満床となれば搬送依頼をお断

りし、他院を紹介せざるを得ないこともあります。また、病状が落ち着いた方や、紹介元で対応可能な妊娠週数となれば、紹介元へお戻りいただいています（2012年の紹介元へ戻れた方：243名）。

胎児頻脈性不整脈→経母体的抗不整脈薬投与、胎児貧血→胎児輸血、胎児胸水→胸水除去・胸腔羊水腔シャント留置、EXIT：ex utero intrapartum treatment等の胎児治療も行なっています。



エックス線透視撮影装置が更新されました

検査・放射線部 主任放射線技師 久保田 晴元

平成24年10月にエックス線透視装置が更新されました。旧装置は、平成6年から24年までの18年間、主に消化器系の検査に使用してきましたが、昨年10月にその役目を終えました。

今回、新たに導入された装置は完全なデジタル機器で、院内の医療情報システムとの連携が容易であり、検査後直ちに画像の閲覧が可能となりました。

本装置の主な特徴としては、画像受光部にFPD（フラットパネルディテクタ）システムを使用している点です。FPDは従来のI・IDR（イメージ・インテンシファイア デジタルラジオグラフィ）システムと比べて被ばく線量が少なくなります。また、歪みや感度ムラがなく、矩形視野により四隅まで透視下で確認できるため、関心部位の確認・ポジ

ショニングが容易に行えます。

さらに嚥下造影では、検査台にベビーラック等を固定することなく床に設置したままで可能となり、安全に検査が行えるようになりました。



Concept

コンセプト

基本理念

周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。



基本方針

1. 患者の権利を尊重した医療の実践
2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
5. 親とこどもが一体となった治療の推進
6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
7. 医療ボランティアとの協働による患者サービスの向上
8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化

編集後記

桜の季節となりました。4月になり新たな気持ちで生活をスタートされた方も多いのではないのでしょうか。皆様のご協力のもと「げんき力エール」41号を発行することができました。これからもたくさんのご意見、ご感想をお待ちしています。

編集委員長：橋本ひとみ
編集委員：田中亮二郎 木村 弘子 内海 祐子
井手 敦子 服部 典昌 赤松 娟子
山根 龍也

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院

周産期医療センター 小児救急医療センター

〒654-0081 神戸市須磨区高倉台1丁目1-1
TEL 078-732-6961
FAX 078-735-0910(総務課)
FAX 078-732-6980(予約センター)
URL: <http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/>
E-MAIL: info_kch@hp.pref.hyogo.jp